

### 対象国の汚泥処理分野における開発ニーズ(課題)

- 下水道整備等による水処理が進むにつれて、汚泥の発生量が激増する見込み
- すでに埋立地のひっ迫が課題になっているため下水汚泥の安全かつ効率的な減容化や再資源化が喫緊の課題

### 提案製品・技術

- 廃棄物(下水汚泥、排水処理の余剰汚泥、生ごみ等)を24時間以内に90%以上減容化
- 焼却処分の場合と比較し1施設あたり温室効果ガス排出量を62%削減
- 残渣を肥料やバイオマス燃料として利用可能

### 案件概要

- 契約期間: 2022年10月~2023年11月
- 対象国・地域: ベトナム国ハノイ市、ハイフォン市、ホーチミン市
- 相手国実施機関: ベトナム国Center for Environmental Consultancy and Technology (CECT)、建設省
- 案件概要: 都市部の下水処理場から排出される有機汚泥の減容化や脱水処理を含む下水汚泥処理工程の効率化のための案件化調査。有機性廃棄物減容化装置MISHIMAXと環境リスクコンサルティングとのパッケージ型のビジネス展開を図り、ひいては河川の水質改善、二酸化炭素排出量削減、循環型社会への貢献を目指す。



MISHIMAX (50kg/日)

### 開発ニーズ(課題)へのアプローチ方法(ビジネスモデル)

- MISHIMAXのレンタル事業/販売と環境リスクコンサルティングのパッケージ型ビジネスモデル
- レンタル事業と小型機(MK-50)の販売をベースにして、中型機及び大型機の販売につなげていく

### 対象国に対し見込まれる成果(開発効果)

- MK-1000(1トン/日)販売2台およびMK-50(50kg/日)の販売・レンタル計55台を計画しており実現した場合、約6トン/日の下水汚泥を600kgに減容化
- MISHIMAX導入によって焼却処分量が減少しCO<sub>2</sub>排出量を削減